

ら は た 訪 探 史 歴 クラブ 其の69

TAHARA
History Inquiry
Club

伊能忠敬、

渥美半島を測量調査

伊能忠敬（1745～1818）は江戸時代の測量家で、我が国最初の実測地図を作った人物として存じの方も多いことでしょう。彼は全国を回り測量をしました。ということとは、もちろんこの渥美半島にも測量調査に来ているのです。渥美半島の測量は、忠敬の計10回、17年間にも及ぶ測量調査のうち、第4次測量と呼ばれる調査でした。忠敬は8人の測量隊を組織し、享和3年（1803）の2月28日、江戸を出発しました。

3月29日、伊古部町を朝7時に出発。雨が降りだした昼ごろ高松村に着、宿泊。

4月1日、天候不良のため滞留。

4月2日、高松村を朝6時に出発。午後4時には掘切村の八左衛門宅に着、宿泊。

4月3日、朝8時前に出発。伊良湖村庄屋六左衛門宅に宿泊。

4月4日、朝7時に出発。畠村までの直行隊と、西ノ浜経由隊とで手分けして測量。暮れに畠村長右衛門宅に着、宿泊。

4月5日、朝7時に出発し、古田村の海岸で富士山の方角を測量。午後4時ごろ野田村の庄屋権助宅に着、宿泊。

4月6日、朝7時に出発。馬草村、片浜村経由隊と、片浜、波瀬村経由隊とで手分けして測量。浦村甚四郎宅に宿泊。

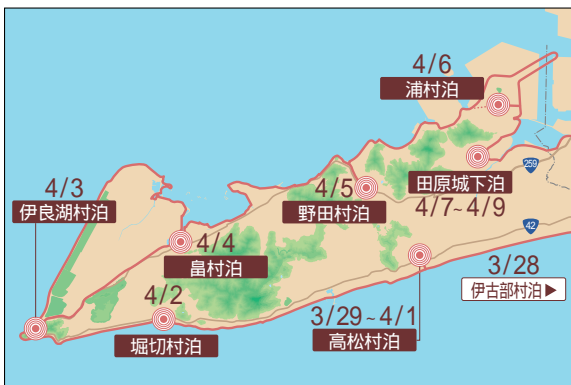
4月7日、朝8時に出発。忠敬は体調不良にて測量を任せ、先に田原城下に入り、広中家に宿泊。

4月8日、天候不良のため滞留。

4月9日、残りの測量を実施。4月10日、朝6時に田原を出発。大崎村で休憩を取り、牟呂村で宿泊。

以上が渥美半島での忠敬の行程です。淡々とした記録で渥美半島の感想は特に記されていないのが残念ですが、実にてきぱきと測量作業を進めたばかりでなく、夜には天文観測をするなど、時間を惜しんで測量したことがわかります。

忠敬の測量は「道線法」と呼ばれる多角測量でした。これは、一地点から次の地点へ次々に方位と距離を測る方法で、決して新しい方法ではありません。ただ、彼のすばらしいところは、この普通の測量方法で、当たり前前の作業を丁寧に行い、それに天文測量などを加え位置を修正し、誤差をなくするための工夫を徹底に行ったことでした。



忠敬の測量行程



忠敬が宿泊し、天体観測した田原町本町の広中家跡

実業家として成功を収めた忠敬は50歳で隠居、自分が好きだった測量・天文観測を学び、第二の人生を歩み始めました。正確な地図を作るという目標に突き進むと、やがてこれが幕府の事業として認められるに至りました。いつまでも自分の夢を追い続け努力した彼の生き様は、今を生きる我々にも勇気を与えてくれます。

そんな偉大な忠敬の渥美半島での姿を、タイムマシンにでも乗って見てみたいものです。（増山）

お詫びと訂正

11月号掲載の「杉浦民平」は「杉浦明平」の誤りでした。お詫びし、訂正させていただきます。

文化財課 23局3531